

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年9月7日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873700454		
法人名	有限会社 松本薬局		
事業所名	高齢者グループホームひまわり	ユニット名	—
所在地	〒311-3512 茨城県行方市玉造甲422		
自己評価作成日	平成23年1月15日	評価結果 市町村受理日	平成23年8月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成23年4月21日	評価確定日	平成23年8月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- ・地域の中で、地域の住民にも支えてもらえるホームを目指しています。
- ・利用者の「思い」を大切にして、それを支援しています。
- ・利用者の個々の能力を発揮できる役割づくりをしています。
- ・日常の生活リズムを大切にして四季を感じてもらえる工夫をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

管理者や職員は利用者が心豊かに地域の中でその人らしく生活ができるように支援をしている。
職員は利用者が季節を感じたり馴染みの場所に行けるよう、年間行事計画を立てて外出支援をしているほか、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、希望にそった個別の外出を支援するなど、今までの生活が継続できるように努めている。
保育園児との交流や小学生の慰問、中学生の体験学習を受け入れたり、老人会と合同の運動会を開催し、地域の人々と交流ができるように支援をしている。
東日本大震災ではライフラインが復旧するまで、利用者の家族等が食事を支援するなど事業所と家族等との協力関係が築かれている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者の人格を尊重し、地域の一員としてその人らしく生活できるよう、地域生活の継続支援と専門職としての知識や技術向上を目指す」を理念に掲げ玄関に掲示し、常に意識して月一回の会議や日々のミーティングで確認し話し合っている	代表者が設立時に作成した地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を大切に、玄関やリビングに掲示するとともに職員は毎月の会議で確認し共有している。 年毎に「笑顔」など具体的な理念のテーマを全職員で決め、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	一年を通して、地域の子供や保育園児と交流している。また、年一回の運動会には老人会にも参加してもらっている。防災訓練には地域の消防団、ご近所の人にも参加してもらっている	中学生の体験学習を受け入れたり、小学生の慰問による手品や歌などを観賞し交流しているほか、年間を通して保育園児の来訪があり、利用者は園児との交流を楽しみにしている。 利用者は地域の祭りや文化祭に出かけ地域の人々と交流をしている。 事業所と老人会が合同で運動会を開催しているほか、地域の清掃活動に利用者職員が一緒に参加するなど、事業所自体が地域の一員としての役割を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人達に集まりの場所として提供している。また運動会を一緒にすることなどで近隣の高齢者の方々に認知症について理解していただく機会を作っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、民生委員、区長さん、行政、家族代表、及びホーム関係者等で二ヶ月ごとに開催している。会議では、ホーム行事に参加していただいたりして、入居者と直接触れ合うことを通し、理解を深めてもらっている。また会議で出された意見や要望は真摯に受けとめケアの向上に努めている	運営推進会議は家族等の代表や市職員、区長、民生委員で2ヶ月に1回開催している。 会議では事業所の状況や行事報告をするほか、今後の行事や防災対策などについて話し合い、出た意見等をサービスの質の向上に活かしているが、会議の内容を家族等や欠席した委員に報告するまでには至っていない。	運営推進会議で話し合った内容をまとめ、家族等や欠席した委員に報告することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護担当者は運営推進会議にも毎回参加して下さり。事業所にも頻繁に顔を出してくれているので随時連携を図っている。またオーナーは地域ケアシステム会議には委員の一員として参加し、協力関係を築くように努めている	市担当者は毎回運営推進会議に出席するほか、書類を届けるなど頻繁に事業所を来訪している。 管理者は市担当者に訪問や電話で事業所の実情を報告したり、運営や設備に関する相談などをして協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関するマニュアルがあり事業所の職員全体で拘束に対する意識の向上を図りながら、ケア、見守りに取り組んでいる。利用者の安全面に配慮しながら、日中は鍵を掛けずに見守り、対応している。また不安定な利用者が外に出た場合にはさりげなく職員が付き添い、個人の自由を尊重したケアに取り組んでいる。	玄関に身体拘束廃止のポスターを掲示し、職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 職員は身体拘束の弊害を理解しており、玄関を施錠せず見守ることで利用者の自由な生活を支援している。 職員は身体拘束をしないようカンファレンスで検討し、夜間でも利用者の話し相手になって利用者が安心して眠れるように対応するなど、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や会議を通じ職員間でも話し合いの機会を持てるよう努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	研修には積極的に参加を呼び掛け、職員には伝達講習で会議を通じ報告・説明を受ける機会を持つようにしている。また家族会等で説明、支援している		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の思い、本人の意向を聞きながら不明な点は納得ができる説明をするよう心がけている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に苦情相談機関を明示するとともに、契約時に説明している職員は家族の訪問時を利用して、不満や要望等を聞き会議等の中で話し合い、家族の意見が反映できるよう取り組んでいる。また玄関先には「意見箱」を設置している	玄関に意見箱を設置するとともに、管理者と職員は利用者がいつでも意見や要望が出せるような雰囲気づくりに心がけている。 家族等からは面会時や年1回開催する家族会で話を聴いたり、家族アンケートを実施し意見等を汲みあげ、出た意見等を運営に反映させている。 運営推進会議に家族等の代表者が2名参加し、意見等を出している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフには随時なんでも話せるような気配りを心がけており、実務的には申し送り時や毎月のグループ会議で意見交換し、快く業務ができるよう努めている	管理者は毎月職員会議を開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。 利用者の癒しの為に犬を飼うことや危険箇所へのスロープの設置など、管理者は職員から出た意見等を運営に反映させている。 年数回不定期に代表者と職員との食事会を行い、様々な事を話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを導入し個々が資格を取得したことにより給与に反映させたり、研修等を支援したりするなど意欲の向上が持てるよう心がけている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加や資格取得へのアドバイス・援助を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域の同業者と運動会や食事会等の交流会を実施している。また茨城県地域密着型介護サービス協議会等での研修、勉強会での情報を取り入れながらサービスの質の向上に取り組んでいる。今後、地域の連絡会ができれば参加していきたい		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けた時から本人が困っている事、不安な事をよく聞き、意向にあった生活ができるよう本人と話し合いをしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人とは別に家族からの視点で困っていることを聞き取り、家族の不安ができるだけ軽減できるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に何に困ってどうしたらよいのか、相談内容を聴きながら、今、そして将来必要なサービスを紹介・提示して家族が選択できるよう話し合い検討している		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をする側、される側という関係ではなく一つの家族として、教えたり、教えられたりしながら一緒に過ごすことを大切にするよう心がけている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヵ月毎に推進会議を実施。毎月新聞を発行し行事等の内容を知ってもらう。年に一度、運動会を実施し家族との楽しい交流から、本人と家族の関係を崩さぬよう家族の絆の再確認に努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方に協力を得ながら、関係を把握している馴染みのある人との交流の機会を設けるようまた面会に来やすい雰囲気努めている	年間計画を立て、利用者が馴染みの場所に出かけられるように支援をしている。 職員は利用者の希望を家族等に伝え、利用者が墓参りに出かけたり自宅の掃除や草取りができるよう支援をしている。 職員は利用者が行きつけの理・美容院や思い出の場所に行ったり、馴染みの店で買い物ができるよう、できる範囲で個別の支援をしている。 職員は家族等の承諾のもと、利用者の友人や知人の面会を歓迎し、馴染みの人との交流を支援して関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わりが難しい（耳が遠い、声が小さい、言語障害）方等、相性もあるので座席の配置に気を配ったり、利用者同士の関係を把握し職員が仲立ちとなりよい関係が保てるよう努めている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院による退去、死亡しかなく、出来るだけ見舞いに行ったり様子をうかがったりしている。またいつでも気軽に立ち寄ることが出来るような親しみやすい関係作りに努めている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を活用し、利用者一人ひとりに声かけをし、日々の言葉や表情・動作等から本人の思いや意向の把握に努めている。また家族、関係者から知りえた情報は介護記録・伝達ノートに記録し全職員が把握し利用者一人ひとりの希望に添えるよう支援している	職員は利用者との日々の係わりの中で話をする時間を設け、表情や行動、言葉から利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。 意思疎通が困難な利用者の場合は、生活歴の記録を参考に日々の係わりの中から思いを汲み取るように努め、利用者本位に支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れ生活歴・馴染みの暮らし・仕事歴などの情報を本人、家族からいただき、話あいを持ち、利用者本人の行動、言動の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の状態は介護記録に記入し把握できるようにしている。特に注意すべき事柄は伝達ノートを利用し周知把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人の要望や変化に応じて、本人・家族・職員等と話し合い、新たな介護計画の作成や定期的な計画のモニタリングを行っている	介護計画は利用者や家族等の希望を反映させるとともに関係者で話し合い、長期は6ヶ月、短期は3ヶ月毎に見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合はカンファレンスで検討し、現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の体調の変化、行動、言動に変化があれば支援経過記録・伝達ノートに記入し職員が情報を共有しその都度改善点についての向上を図っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の家族の状況やニーズによって併設のデイサービス利用を行うこともある。今後もあるサービスを最大限に活用しつつ、町内の老人会等と連携を取りながら行事等に積極的に臨んでいくなど、連携を有効的に活用し柔軟な支援をしていく		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人を支えている資源を出来るだけ掘り起こし、個々の行ってきたことや希望は家族と連絡を取りながら支援していく。今までの力を発揮する場として畑での野菜作りの場などを提供している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	担当介護員を定め、それまでの身体状況を医療機関に詳しく伝えることを心がけ利用者の状況に応じた通院や定期的の通院・家族の希望するかかりつけ医等への受診支援をしている	利用者と家族等が希望するかかりつけ医への受診を支援している。 受診は利用者の状況を医師に的確に説明できる職員が付き添い、結果を家族等に報告している。 家族等が付き添って受診した場合は、管理者は家族等に結果を確認している。 利用者の状態に応じて精神科や歯科などへの受診を支援している。 週1回看護師が来訪し、利用者の健康管理をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護員はバイタルチェック・服薬管理ともに関わりを持ち話し合いながら生活を支援している。看護師とのやり取りも支援経過ノートの活用により適切な報告、支援ができるよう努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはそれまでの身体状況を医療機関に詳しく伝えることを心がけ、退院時は家族の要望を聞きながら病院との連携を図り、今後の対応について必要に応じて話し合いホームワーカーとのカンファレンスを行って受け入れに備えている。また入院時には出来るだけ面会に行くようにしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期になってしまった場合のホームの対応には限界があり、家族、医療機関、職員（主に管理者・ケアマネ）等で状況に応じて話し合っており、重度化に向けた対応方針の共有を図っている。看取りに関する同意書・マニュアルを作成し、利用者や家族の意向に添えるよう支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた事業所の対応指針や同意書を作成しているが、関係者で方針を共有するまでには至っていない。事業所は重度化や終末期に向けた対応指針の見直しを検討しているため、利用者や家族等に説明していない。	重度化や終末期に向けた対応について、事業所でできることとできないことを明確にし、体制づくりに取り組むとともに、利用者や家族等に説明することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを備え、応急手当や初期手当にあたり全職員が対応を行えるよう学習し努力している		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、地元の消防団の協力を得ながら、定期的に火災などの災害時の避難方法・誘導の方法を出火場所・時間等を変えて確認し合っておりマニュアルを作成している。防火訓練には近所の人たちの協力も頂いている	災害対策マニュアルを作成するとともに、消防署指導のもと消防団の協力を得て、夜間想定を含めた避難訓練や消火訓練を年2回実施しているが、訓練で明らかになった反省点や課題を記録に残すまでには至っていない。 近隣住民は避難訓練や消火訓練を見学しているが、参加するまでには至っていない。 災害に備え、携帯ラジオ付きの懐中電灯や食糧、飲料水、菓子などを備蓄している。	避難訓練や消火訓練に近隣住民の参加が得られるように運営推進会議等で働きかけることを期待する。 訓練で明らかになった反省点や課題を全職員で話し合い、記録に残すとともに次回の訓練に活かせるよう取り組むことを期待する。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、トイレ介助や居室の出入り等、本人に声かけし同意を得てから行うなど、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮したケアに取り組んでいる。また洗面所・トイレは各部屋に取り付けている	職員は利用者の人格を尊重した言葉かけや対応に努め、利用者の気持ちを大切にしながらさり気ないケアをしている。 居室に洗面台とトイレが備え付けられており、利用者のプライバシーに配慮している。 個人情報の書類は人目に付かないよう事務室に保管し、情報漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人の背景や日常の関わりの中で希望、関心を見極めその場の雰囲気作りなど、感情や思いが表出しやすいよう支援しており。「どういたしましょうか」などと声かけし、自身で好みを選べる事が出来るよう場面作りをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務優先とならないよう、利用者一人ひとりのペースや体調に配慮するとともにその時の本人の気持ちを尊重し、入居者本位の生活であることを意識して、生活リズムが維持されるよう、日々対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し、その人らしい身だしなみおしゃれが出来るよう機会を提供している。又家族とともに以前から利用している本人の望むお店に行く人もいる。髭剃り、爪切り等は場合によっては職員が行っている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で作られた野菜の下処理をして貰ったり、配膳、テーブル拭き等準備を行っている。個々に合わせた食事形態に配慮している。また利用者の相性を考えたテーブル配置をして、誰もが落ち着いて食事ができるよう配慮している	利用者はできる範囲で食事の準備や後片付けを職員と一緒にしている。 献立は管理栄養士が作成し、自家菜園で収穫した野菜を活かして、食材の種類や品数の多い献立となるように配慮している。 職員は利用者の好みや苦手な物を把握するほか、食事形態にも配慮をしている。 行事食や外食を取り入れたり、外出先で弁当を買い公園で食べるなど、食事が楽しみとなるよう支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えた献立を作り残食量をチェックして、摂取量を把握しており、嚥下機能や義歯の状態に合わせてミキサー食など食事の形態を変えている。水分摂取量は別にチェック表に記入し必要時に補給できるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で歯磨きが出来る人には、声かけ、見守り。介助が必要な人には入れ歯洗浄等個々に合わせて行っている。嚥下体操なども行っている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンや排泄サインを把握して対応し。排泄状況をチェック表で管理するなどして声かけ、誘導をしている。尿意のある人にはおむつの使用をしないよう心がけている。	職員は排泄記録表を活用し利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、利用者の様子から排泄のサインを察知して適切に声かけ誘導し、トイレで排泄ができるよう支援をしている。 職員はなるべくおむつを使用しないケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表をつけて、水分摂取を促し、植物繊維摂取の配慮、運動不足ではないかなど多角的に判断。「食べて出す」が基本なので散歩、体操・食事・牛乳・おやつヨーグルトなどで対応、薬に頼る前に努力している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入りたい人には毎日入っていただいております。無理やりお風呂に入れるのではなく利用者の希望する時間になるようタイミングにあわせ入浴できるようにしている。時にはデイサービスの広い浴槽にはいたり、季節にはゆず湯、菖蒲湯なども楽しんでもらっている	利用者の希望にそった入浴を支援している。 入浴を拒む利用者には無理強いせず、声かけを工夫したり、入りたい時に入れるよう支援をしている。 併設している通所介護事業所の広い浴槽を利用したり、柚子湯や菖蒲湯などで入浴に変化をつけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各人の暮らし方や活動状況・状態を的確に把握し個々に合わせ、心地よく休息・安眠できる環境が提供できるよう努めている。また食堂兼居間は広いスペースを確保しソファ、テレビを設置しゆっくり過ごす時間が持てるような環境を整えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を処方された際には各人の「お薬手帳」や「薬剤情報提供書」をファイルにつづり目を通せるようにしている。支援方法に不安や疑問があればケアマネである薬剤師に相談し、速やかな解決につなげている。またリスク・アクシデントを回避するため職員には薬に対する危機感、注意点の徹底に努めている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各人の状態にあわせ、それぞれに合った役割が持てるよう「洗濯たたみ」「おしぼり巻き」「カーテン閉め」等働きかけている。その日ごとにイベントを行い、また天気の良い日は外でのおやつを作るなど触れ合いがあり、張り合いの持てる生活となるよう支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な買物や散歩は毎日でも出られるようにしており。季節には地域の行事・初詣・祭り・弁当を持っての遠出、外食なども楽しんでいる	利用者が楽しみながら散歩ができるよう玄関周りに花を置いたり庭を整備しているため、利用者は一人でも自由に散歩を楽しんでいる。 職員は利用者と一緒に日用品の買い物や美容院に行くなど、利用者一人ひとりの希望にそった外出支援をしている。 職員は年間行事計画を立て、利用者が初詣や季節毎の花見などに出かけられるように支援をしたり、家族等に利用者の希望を伝え、家族等と一緒に外出ができるよう支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれの方の力、状況に応じ、買い物に行った際「お金を出して支払う」ことができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者自ら家族への電話の訴えがあれば番号を押してあげ、自分で話してもらおうよう、かかってくれば取次の支援をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は天井を高く取りゆったりとした雰囲気を取り入れ、音は大きすぎないよう、窓は履きだし、光、外の空気は十分にを取り込めるよう配慮している。壁には写真や入居者の作品が飾られ、生活の様子を知らせている。トイレ、浴室は十分換気し清潔で機能低下への配慮が十分している。食堂のテーブルや廊下、玄関にはいつも季節の花や植物が飾っている。ゆったりとしたソファ・テレビ、和室にはこたつを囲んでの団らんの場になっている。	リビング兼食堂は天井が高く、ゆったりと明るい空間で清潔に保たれているほか、自家菜園や整備された庭が眺められ、季節を感じながら居心地よく過ごせる場所となっている。 リビングの一角にある和室に炬燵を設置して利用者が一人の時間を過ごしたり、気のあった利用者同士で寛げるように配慮をしている。 廊下やトイレ等に手すりを設置し、高齢者に優しい設計となっている。 共用空間は採光や換気に配慮し、花を飾って季節感を取り入れている。 壁に行事の写真や利用者の作品、似顔絵による職員紹介などを飾り、利用者が居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファ・書棚があり、いつも座る場所が決まっているらしく、そこを自分の居場所としているらしい。フロアの一角にある畳の部屋にはテレビ・コタツが置いてあり自由に時間を過ごせる場所を確保している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの時計や家族の写真、テレビ、ラジオ等が持ち込まれており、その人らしく安心して生活できるよう身体・認知状態に合わせて、居心地のよい空間作りを工夫している。またプライバシーに配慮し各部屋に洗面台・トイレを配置している	居室にはトイレや洗面台、整理ダンス、ベッド、エアコンが備え付けられている。 大半の利用者は居室にテレビを持ち込んでいる。 管理者と職員は利用者や家族等に使い慣れた馴染みの物品を持ち込んでもらうように働きかけているが、利用者は多くの時間を共用空間で過ごしたり、一時帰宅する利用者が多いため、馴染みの物品の持ち込みはほとんど無い。	利用者が居室で居心地良く暮らせるよう、家族等に働きかけて使い慣れた物品を持ち込んでもらうことを期待する。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室がわかるように、花の絵を目印にしたり、理解が困難な場合には声かけ、付き添いをしたり、暮らしの中で状態を見極め、その人に合わせた環境づくりや物品の手入れや調整を行い、より自立した生活が送れるよう支援している		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 高齢者グループホームひまわり

作成日 平成23年8月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議で話し合った内容をまとめ、家族等や欠席した委員に報告する	会議で話し合った内容を委員全員で理解する	23年度より、会議内容をまとめ、欠席した委員に報告する	1カ月
2	12	重度化や終末化に向けた対応について、体制作りに取り組む。又利用者や家族等に説明する	対応についての体制作りに取り組む	マニュアルを作り利用者や家族等に説明、理解していただく	3カ月
3	13	避難訓練や消火訓練に近隣住民の参加を働きかける、又反省点、課題を次回の訓練に活かせるよう取り組む	近隣住民に理解していただき、参加をお願いする。又反省点・課題を次回に活かせるよう話し合う	近隣住民の参加が得られるようその方法を考える。反省点・課題を全職員で話し合い記録し、次回の訓練に活かせるよう取り組む	6カ月
4	20	利用者が居室で居心地よく暮らせるよう使い慣れた物品を持ち込んでもらう	利用者が居心地よく暮らせるには何が必要か話し合う	利用者家族と話し合う 使い慣れた物品を居室に持ち込む	6カ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。